

式 辞

春の訪れを感じさせる、包み込むような暖かさが日ごとに増す今日の佳き日に、大阪府立茨木高等学校 第七十八回卒業証書授与式を保護者の皆さまやご家族の方をお迎えして挙行できますことは、教職員一同この上もない喜びであります。

はじめに、公私ご多用の中ご臨席賜りました、久敬会、ゆうかり会、PTA・後援会、学校運営委協議会、学校三師ご代表のご来賓のみなさまに高いところからではございますが、心からお礼申し上げます。誠にありがとうございます。皆様方には、平素より本校教育に深いご理解と多大なご支援をいただいておりますことに、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与した三百十七名の七十八期生の皆さん、卒業おめでとうでございます。

令和5年4月、正門の桜の木の下、入学の記念写真を撮るみなさんのはじけ飛ぶような笑顔、コロナウイルス感染症が終息を迎えようとしている気配と3年間への期待に胸を膨らませている様子が昨日のこのように思い出されます。昨日、卒業歌について話をしに来てくれた皆さんとのやりとりまでの2年11ヶ月。78期生が残してくれた多くのことを少しだけ振り返らせてください。

1年生4月京都大学でのスプリングセミナー。アクシデント、予定変更、卒業生の先輩たちへの配慮を交えながら、その日、その場で最初から最後まで眺めていたからこそできる閉式のあいさつ。鋭い観察と豊かな表現力溢れる数々の描写に驚きと喜びで満たされました。

1年次、文化祭。誰も知らないことですが、朝の挨拶時に、“Good Morning”という言葉が数度、投げかけられました。

2年生宿泊野外行事。二日目夕食中、汗だくになって全員分の水を準備する行事委員。3日目のレクレーション。それぞれが様々な活動をした3日間、そのすべての活動を学年みんなまで共有できるようにクイズが企画されました。

茨木市頑張るフェスタでのポスター発表、冊子配布、サータアンダギーをふるまい、沖縄で学んだことを現地だけの思い出にせず、両地域の交流まで広げていこうとする試み。

2年次、妙見夜行登山。見通しの悪いカーブが続く道。前と後ろのグループが離れてしまわないように絶妙の位置で明かりを灯し、歩き続ける妙見委員。

往路から足を痛めている。最後尾を歩く。痛めているほうの足に力が入らない。車道に体が傾きそうになる。その半歩後ろ、半歩右側をそっと、ずっと歩き続ける仲間。

2年次、音楽会でのミュージカル。圧倒的な演技力、歌唱力は言うまでもありませんが、併せて、村人を含む多くの出演者が歌い、踊る場面での踊りはもちろん、その切り替わる瞬間の静止しているコマ数秒の美しさ。みんなが伝えたいことを何度も話し合い、お互いに見つめ合い、演技の隅々までそれぞれがより良きものを求めあった結果、生まれてきたパフォーマンス。

3年次、1年生との対面式。入場するであろう1年生のためにさらにスペースを空け拍手が始まる。なかなか姿が見えない1年生の入場を待ちわびる。その音に包まれることの心地よさを知っているからだ。数分後、入場が始まった。片時も手を合わせる力が弱まらない。1年生全員に同じように歓迎を伝えたいからだ。十数分間続く大きな拍手。

その拍手の大きさ、力強さとは、真逆の呼吸の音すら聞こえないような静寂、体育祭閉会式での、優勝総団長の言葉、「多くの人の応援があったからこそ、今、みんなの前で話ができる。すべての団が全力で今日を迎え、取り組んできた中で今、自分がここにいる。」総団長が語るすべての人の実感の伴う言葉。2025年、78期生として体育祭を迎え、みんなと同じ時間を過ごし、みんなと同じ熱さを味わえた。この言葉に78期生の佇まいのすべてがある。

その場、その時に与えられた役割が果たせることの意味を知っている。リーダーの役割を知っている多くの人たちが良きフォロワーとなる。単にフォローするだけではなくすべての人がサポーターになる。なぜそんなことが可能なのだろう。それは、自分事として他の人のことを「憂う」力があるからです。うまくいかなかもしいという「憂う」気持ちを人と人との間で共有できる力に他なりません。宿泊野外行事の行事委員、人権講演会の人権委員、学校説明会で発表を担ってくれた人たち、音楽会や妙見委員の幹部たち、自らの役割を果たそうとする責任感とかかわってくれるすべての人に受け取ってもらいたいやりがい。そのために力を尽くす中で「憂う」気持ちが消えないという言葉が数多く届けられました。人を表すという人偏は夢という字すら儂いという言葉に変えてしまう。その人偏が「憂う」という文字を「優しい」という文字に変えてしまうということを78期生のみなさん、あなたたちは教えてくれました。130周年を迎えた茨木高校がずっと大切にしてきた「優しさ」をいたるところで感じさせてくれました。

「優しいなあ」78期生。IBARAMAの授業、校長ブログで占いができることを教えてくれました。体育祭、大地と戦い血だらけになっている私に駆け寄りハンカチで顔を拭いてくれました。「カンガルーカバンにつけているんです」と笑顔のあいさつ。授業見学时、こちらの席の方があったかいですよ。その椅子ガタガタしますからねというオファー。放課後、昼休み、早朝、部活動の成果報告、試合観戦の依頼、相談や感謝、愛情たっぷりの表現「ありがとう」や「大好きです」の言葉「道に迷ったおかげでこんなに多くの星が夜空にあることに気づけた。妙見委員さんに感謝やな。」というつぶやき。

届ける必要がないかもしれない想いを、届けたい、届けた方がいいという判断をし、言葉にし、行動に移せる78期生。それは、1人ひとりがありのままにいられることの意味を深く理解し、1人ひとりを慈しむことの大切さを知っているからこそなせる業です。

だからこそみなさんと触れ合った名護高校、本部高校の生徒も先生もファンファーレの方々や地域おこし協力隊の人たちもかかわりを持てたことの喜びと、そして自らの活動の意味を感じる機会が得られたという感謝の言葉、沖縄への旅のお世話をいただいた添乗員の方やBeyond Iのスタッフの方々から「人生を大きく変える仕事となった」というメッセージ。がんばるフェスタを見た同窓会理事の方々の「何か力になってやらないといけないな」というコメント。触れ合い、かかわった人々の心に何か新しい力を生みだすきっかけを与え続ける力があるのです。

78期生のみなさん、どうか「憂う」気持ちを携え、本当に人を大切にする「優しさ」を添え続ける人であり続けてください。この一言が大切だという場面で言葉を発することができる人でいつづけてください。簡単なことではありません。ただ、「自分らしく、あなたらしく」あることを心掛けてください。それだけでいい。そうすればきっとあなたたちは将来出会う俯くことしかできない状況にある人たちに、夜空には多くの星が輝いていることを伝え、勇気づけることができるはずです。心から願う、「あなたらしく」あれますように！

最後に、保護者の皆さま、力が及ばず、多くの機会、さまざまな場面でご心労をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。保護者の方々とはお会いする機会にお声がけいただき、お力添えをいただいたことに心より感謝いたします。ありがとうございます。

思い描いたように過ごせない高校生活に戸惑うお子様に心を寄せ、声をかけ、力を添え、時には声を押しとどめ、そっと遠くから見守る日々もあったことだろうと思います。一千「日を超える茨高生活の末、本日を迎えられたことに対して心から敬意を表するとともに、

行き届かないことも数多くあった本校の教育活動にご理解、ご協力、ご支援いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。本校にお子様をお預けくださりありがとうございました。皆様にとって、社会にとって大切な宝物であるお子さま一人ひとりをご家庭にお返しいたします。お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

78期生のみなさん、最後にもう一言。みなさんのおかげで役職である校長から何度も何度も校長先生にしてもらえました。時には高江洲先生に戻してもらいました。いや、高江洲良昌にもらったこともあります。暖かかった。優しかった。包み込まれた。出会うといつも心がポカポカしていました。出会えてよかった。卒業おめでとう。そして抱えきれないほどの「ありがとう」が皆さんの胸に届くことを願って私の式辞といたします。

令和八年二月二十七日

大阪府立茨木高等学校長

高江洲 良昌